

〈東北・新潟の活性化応援プログラム〉 2019年助成団体活動成果レポート

助成団体

いわてアートプロジェクト 実行委員会

岩手県盛岡市

プロジェクト名

3・11の記憶を東京へ。 『二人の海外アーティストによる東北の記憶』プロジェクト



■地域の課題

東北が3.11を忘れる事は無い。けれど日本全体が多くの自然災害に見舞われる中、東北以外では震災の記憶はだんだんと遠のいていっているのではないのでしょうか。

■当団体の紹介

東日本大震災以降、東北に通い続け、東北を伝え続ける二人の海外アーティスト(写真家・建築家)を中心とした展覧会を東京で開催し、震災の記憶の共有と風化防止や防災意識の向上などを目指しています。



■背景・目的は？

このプロジェクトの中心になるアーティストは、海外から東北に通い続け、東北を伝え続けている二人です。

今回、私たちが伝えたいのは、東北の記憶を東京でも改めて想起してもらうこと。そして震災の後、哀しみだけではなく人種を超えた繋がりが生まれ、そこから新しい芸術も生まれているということを知って欲しいと考えています。

■具体的な活動は？

(1) Magdalena Sole 写真展

会期：2020/3/3~4/27

場所：汐留メディアタワー3F 共同通信社ギャラリーウォーク

来場者数：2,800名(1日平均約50名×56日として換算)

開催して直ぐにコロナによる緊急事態宣言発令となったため、通常の一般客は少なかったですが、報道関係者の往来はあり、足を止めて見入る人も多かったです。

(2) 「花とともに生まれん。3・11以後、復興とアート」展

会期：2021/3/1~3/13

場所：東京ミッドタウン・デザインハブ

来場者数：1,311人(1日平均約100名)

1年延期、また緊急事態宣言解除前の開催でしたが、1日平均100名の来場者がありました。来場者からは、「東北を応援しています」「10年目という節目に海外のアーティストの思いに触れ、色々と考えさせられる展示だった」等の声が寄せられました。



Magdalena Sole 写真展



Magdalena Sole 写真展



「花とともに生まれん。3・11以後、復興とアート」展



「花とともに生まれん。3・11以後、復興とアート」展Ana「テスラ」



■活動の成果は？

今年の3月11日は、震災10年の節目として報道等で多くの特集が組まれた影響もあってか、本事業はメディアやSNSなどによる多くの告知や発信につながったのではないかと思います。以下、主なものです。

- スイス大使館ホームページ
- セルビア大使館ホームページ
- 東京ミッドタウン情報関連
- 日本デザイン振興会(JDP)メールマガジン
- 六本木アートナイト 開催概要 | 六本木アートナイトスピンオフプロジェクト(roppongiartnight.com)
- HILLS Clubフォトニュース 東日本大震災から10年「花とともに生まれん。3・11以後、復興とアート」/ フォトニュース/eHills Club
- Ana D'Apuzzo: Izložba 'Rođeni sa cvećem' - Japanorama
- 山田サト - 東京ミッドタウン・デザインハブ特別展花とともに生まれん。3・11以後、復興とアート - Powered by LINE (lineblog.me)
- 盛岡タイムス(3/12)

特に「花とともに生まれん〜」展を通じて、美術作品とともに岩手県復興局によるこれまでの岩手県内の復興の歩み及び知事メッセージを東京で紹介できた意義は大きかったと考えます。

東京での開催にあたり、課題として大きかったのは、やはり資金面です。会場費、輸送費、スタッフの交通費等の負担が非常に大きいことを考えると、事業開催をあきらめざるを得ない他団体も多いのではないのでしょうか。

しかし、今回の助成金を受けることができたことによって東京開催が可能となり、岩手県の補助金申請に際し、実績として評価につながったのではないかと思います。



「花とともに生まれん。3・11以後、復興とアート」展
Anaインスタレーション



「花とともに生まれん。3・11以後、復興とアート」展
マガジン展示



「花とともに生まれん。3・11以後、復興とアート」展
会場



「花とともに生まれん。3・11以後、復興とアート」展
会場看板

団体からのコメント

- 本展示で紹介したアーティストとの活動は今後も継続していきます。
- 震災後10年を過ぎ、今後の支援の在り方も、物質的な復興から心の復興へと重点が変化していく中、アートによる心の復興は今後も大きな働きをされると思われるため、引き続き活動を行っていきたいです。

やはり財源の確保が課題です。(財源が確保されれば、人員面もある程度はカバーできるため)

また、今回のようなコロナ禍においては、「花とともに生まれん〜」展の記録を映像で残し、伝えることの重要性も感じていますが、そうした取り組みの財源も課題です。

今後も被災地の心の復興につながるようなアートを中心とした展覧会等の活動を岩手県内外で行ってゆくつもりですが、営利事業ではないため財源確保は課題です。自治体あるいは企業とのパートナーシップ関係を築きながら社会貢献に努めていきたいと考えています。

